

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870101041		
法人名	医療法人社団 甲有会		
事業所名	アネシス魚崎		
所在地	神戸市東灘区魚崎南町5-13-6		
自己評価作成日	平成27年7月24日	評価結果市町村受理日	平成27年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成27年8月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

見学に来られた方や現在入居中のご家族様からも、家庭的な環境が良いと仰って頂くことがある。建物の立地的にも、住吉川や公園、スーパーなどの社会資源も多くあり、うまく活用できている。地域の夏祭りへの参加や、学童保育の来所、ボランティアの受入等もしており、今後も継続していきたい。  
家庭的な環境の中で、社旗資源を生かしつつ、ご入居者様・ご家族様に安心と満足をお届けし、職員も含め笑顔の多い場所で今後もありたい。  
共用型デイサービスも行っており、通われている方が、ゆくゆくは慣れた同じ場所へ入居してもらえ環境も維持できている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住吉川沿いに位置し、近くには公園・酒蔵・スーパー等があり社会資源に恵まれている。午後の時間帯の職員配置を厚くして、外出支援等で社会資源をうまく活用している。共用型の認知症高齢者通所介護事業所を併設し、より地域に密着したサービスの提供に取り組んでいる。家庭的な雰囲気のもと、一人ひとりのペースに合わせたケアに努めている。職員の育成・資質向上にも努め、各種研修を定期的・計画的に実施しており、職員の定着率も良い。運営母体が医療機関であり利用者・家族に医療面で安心感を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念・基本方針とは別に事業所の理念が存在する。実践できているよう努めているが、新人職員への浸透にかんして完全ではない。	グループホームの理念に「安心のある暮らし」「尊厳ある暮らし」「地域に根ざした暮らし」を掲げ、地域密着型サービスの意義・役割を明確にしている。理念を各フロアーのステーションに掲示し、時には日々の事例を、ユニット会議等で理念に沿って利用者本位に立ち返って話し合っている。理念を具現化するために、毎月の目標を「ステップアップシート」にまとめ掲示するとともに、リーダー会議等で進捗を確認して、次のステップアップシートに反映させている。ふれあい喫茶への参加等、「地域に根ざした暮らし」という理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・学童・ボランティアなど、地域交流を図っている。	地域の自治会に加入している。地域の夏祭りやふれあい喫茶、酒蔵開き等に参加し、カントリーダンス等のボランティア来訪や秋祭りには地域のだんじりが事業所前に訪れている。東灘区のボランティアセンターと傾聴ボランティアの来訪を検討している。また、地域の清掃活動への定期的な参加や、散歩時等に腕章をつけて地域の小学生の見守りを行う「子守会」への参加等、地域で必要とされる役割や活動を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でトピックス等をあげるようにはなったが、できていない部分が多い。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>偶数月、第一金曜日に運営推進会実施。活動報告・地域の皆様、家族様、知見を有する参加者よりご意見頂いている。</p>	<p>家族代表・自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・知見を有する者等が参加して、2ヶ月に1回定期的に開催している。参加家族を固定せず、毎回各フロア2家族に声かけを行い、出来るだけ多くの家族に参加してもらっている。参加していない家族にも会議の内容がわかるように議事録は玄関に掲示している。会議では、利用者の状況を写真付きで知らせ、第三者評価の受審結果等、事業所の現状や取り組みについて報告している。また、トピックスとして話題提供や、家族等からの要望や提案に対する対応状況を報告している。ボランティアセンターの活用等、そこでの意見・提案をサービスの向上に活かすよう努めている。</p>	<p>より多くの意見・提案等をサービスに活かし、外部者に意見等を表す機会づくりとするために、引き続き利用者にも参加を呼びかけてみてはどうか。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>東灘区のグループホーム連絡会や東灘区ボランティアセンターなどと連絡など、協力体制は気づけている。</p>	<p>運営推進会議に参加している地域包括支援センター職員を通じて事業所の取り組み等を伝えと共に、東灘区グループホーム連絡会に参加し情報交換等交流を行っている。また、区の関連部署と電話等で、ボランティアの受け入れや法令解釈等の相談を行い、区も適切な助言を行って協働関係が築かれている。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践                      代表者および全ての職員が「介指定期準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>入職時の虐待防止・身体拘束についての研修を必須とした。研修は年2回実施しているが、職員の行動制限等に対する意識をもっと高める必要がある。</p>	<p>入職時には必ず「身体拘束・虐待防止」についての研修を行い、年間の内部外部研修予定表でも「身体拘束・虐待防止」を盛り込んでいる。神戸市作成のDVDを活用しながら、拘束がもたらす弊害や禁止の対象となる具体的な行為を学び、行動制限に対する意識向上に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。研修は多くの職員が参加出来るように、同じ内容での頻回研修を年2回実施し、参加者には研修報告書の提出を義務づけている。参加できなかった職員には資料の配布を行い、研修報告書の提出を義務づけている。また、不適切な事例があれば、お互いに注意し合っている。</p>	<p>玄関は開錠されているが、2・3Fのエレベーターや、1Fドアがナンバーロックされていることについて、鍵をかける事の弊害や、鍵をかけない暮らしの大切さについて話し合う機会を持ち続けることが望まれる。</p>
7	(6)	<p>○虐待の防止の徹底                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>上記同様、入職時研修の必須項目となる。年2回の研修に加え、不適切なケアには十分注意しているが、全ての職員がもっと意識を高める必要はある。</p>	<p>上記の身体拘束に関する研修とセットにし、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を設け、知識と意識の向上に努めている。管理者は日々職員への声かけを心がけると共に、ラウンド時に不適切なケアがあれば注意したり、面談の機会を設け話し合っている。夜勤時間の短縮、利用者の状況に合わせた勤務調整等、職員の疲労やストレスが利用者のケアに影響を与えないよう努めている。また、入浴時等には利用者の身体状況に留意し、打撲痕等を発見した場合は必ず記録として残し、自宅や事業所内での虐待が見逃される事のないよう注意を払い防止に努めている。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない。 後見人制度のついての知識は不足している。	この1～2年は、職員に制度への理解を深める取り組みが十分とは言えない。現在、成年後見制度を利用している利用者があり、後見人への状況報告や証書類の提供等の実務面での協力支援を行っている。利用が必要な利用者があれば、地域包括支援センターと連携して支援に努める体制がある。	利用者一人ひとりの制度活用の必要性の検討や、制度を活用する利用者が出てきた場合に適切な支援ができるよう、職員への制度の理解を深める取り組みが期待される。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に誓約書・重要事項説明書等の説明を十分に行い、同意を得ている。	契約前の見学時等に、現場を見てもらいながらパンフレット等でサービス内容の概略を説明している。契約時には、管理者が質疑応答を交えながら一項目ずつ十分な説明を行い、納得を得て契約している。特に利用料金については介護度別のシュミレーション表を用い、解約条件については誤解がないようしっかり説明している。利用料金の変更等で契約書の内容を改定する時は運営推進会議で説明し、根拠を明確にした覚書を送付して同意を得ている。解約時には解約後の支援方法についての情報提供や利用手続き等、十分な説明と納得を得て円滑な退居に向けた支援に取り組んでいる。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の設置、意見箱の設置を行っている。 苦情があった際は早急に対応し、家族様・入居者様へ報告している。	家族訪問時には、最近の利用者の状況を報告するよう心がけ、毎月利用者の事業所での健康状態や様子等を記載した「月間報告書」を写真同封で家族に送り、意見等が出やすいよう努めている。また、各フロア2名の家族に運営推進会議への参加を呼びかけ外部者へ意見等を表す機会づくりとしている。ケアプランの説明時にも意見・要望等の把握に努めている。ご意見箱は、人目につかず投函できる場所に設置し、記入しやすい記載様式を検討している。また、家族会の再開を検討している。出された意見・提案等について、対応等をフロア会議で話し合い、共有と周知に努めている。ボランティアによるカントリードダンスの採り入れ等出された意見を運営に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアの会議への参加をできえう限り行っている。職員への面談も順に実施している。	管理者は日々職員へ声かけを行うとともに、定期的開催するフロア会議やリーダー会議、各委員会で職員からの意見や要望の把握に努めている。課題によっては法人管理者会議(副理事長・管理者等が参加)にも諮って、運営に反映させるように取り組んでいる。職員用「ステップアップシート」に合わせた面談、年2回の定期的な面談、契約更新時の面談等、各種の面談制度を採り入れ、意見や要望の把握に努めている。また、「副理事長110番制度」や「管理者評価制度」の採り入れとともに、副理事長がフィードバック等に来訪しており、管理者や職員等から意見や提案を聞く機会を持っている。衣類の取り違え防止のための工夫や夜勤時の勤務体制の変更等、出された意見・提案を運営に反映させている。 利用者への接遇改善目的等でフロア間の異動は行っているが、フロア全体での行事開催等で職員と利用者との馴染みの関係構築に配慮し、利用者へのダメージを防ぐよう努めている。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、懇親会や祝賀会等、職員の声を聴く機会を設けたり、条件等も整備されている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に自己目標の設定、年間計画にて研修の実施。法人内事業所への研修の機会も設けている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者とのつながりはある。職員はまだ少ないが、機会を増やしていきたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にてアセスメントを行い、その情報を職員へ周知している。また、信頼関係を築くために家族様等とも入所時は細目に意見交換をおこなっています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様に加え、家族様とも信頼関係の構築に努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	共用型DSも含め、他のサービスも検討しています。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する者同士として、できる限りの一緒に活動に取り組んでいます。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の相談時にお話しさせて頂いています。 月間報告にて一か月の様子を報告させて頂いたり、変化等があれば、電話等にて近況報告をさせて頂いています。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設行事等への参加を促しは行っているが、在宅中の馴染みの関係性への支援はできていない。	入居前の面接時等に「私の暮らし方」や「私の歴史と暮らし方シート」を用いて、家族に生活歴、趣味等を記載してもらい、本人が大切にしてきた馴染みの人や場所についての情報を把握し共有している。また、日々の関わりの中で把握した事は「介護記録」や「カンファレンス記録」に記録として残し、情報の把握と共有に努めている。知人・友人訪問時の再来訪の依頼、ゴルフが好きな利用者のゴルフ練習場への送迎、教会への礼拝、季節ごとの手紙のやり取りや友人との文通等、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑にいくように、席の配置や職員が間に入るように努めている。		



自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談は随時受け付けております。 退所支援においては密に連絡をとり実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活が営めるようにご本人・ご家族様からの情報収集に努めております。	上記の「私の暮らし方」「私の歴史と暮らし方シート」等で思いや意向・希望を把握し、記録として残して共有している。また、意思の疎通が難しい利用者は、家族から把握したり、表情や言動等から、本人本位に立ち返って、よりよく生活できるよう職員間で話し合い、状況に応じた支援に努めている。また、目の不自由な利用者には、こまめな声かけでコミュニケーションをとりながら、思いや意向の把握に努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の契約時や入居時にアンケートやヒヤリングを行い、把握できるように努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を記録し、情報共有を行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・モニタリング・カンファレンス・介護計画の作成という流れを構築できていなかったが、見直しを行い実施に向けて改善したばかり。	3ヶ月毎にアセスメント・カンファレンスを行い、介護計画を作成している。本人・家族の意向をしっかり踏まえ、カンファレンス等で話し合った気づきや、かかりつけ医・看護師・鍼灸師等とも相談しながら作成している。ニーズに対して項目ごとに「モニタリングシート」を作成して、計画通りに実施できたかどうか確認して、次の計画に結び付けている。入院等利用者の状況や家族の意向が変化した時は、期間に関係なく現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の些細な変化を見逃さず、予防的な関わり・支援を行っていくためにも、少なくとも月1回程度利用者の状況と計画内容の確認を行うことが望まれる。また、モニタリングの根拠が明確になる記録の工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を記録に残し、情報共有に努め、ケアに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に訪問リハビリを利用頂いているなど、ご家族様と相談し、実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会が活発であるため、イベントなどには参加させて頂いています。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の選択をご本人様・ご家族様のご意向に沿って支援しております。	2週に1回往診を行う医師をかかりつけ医とする利用者や、今までのかかりつけ医が往診して受診する利用者も有り、利用者や家族の希望を尊重した受診支援を行っている。眼科・歯科等の往診もある。通院介助は基本的には家族が行うこととして契約時に話し合っているが、家族の都合などによっては事業所が臨機応変に対応している。受診結果はお互いに報告し合い、「訪問診療記録」等に記録として残している。また、週1回法人事業所の看護師の訪問があり、医療との連携を図りながら健康管理に努めている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に法人内の看護師に訪問してもらっています。その際に気づいた点や相談等を行っています。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時・入院中と医療機関との情報交換等を実施しています。	入院時には「介護サマリー」等で、入院時における本人の支援方法に関する情報を入院先医療機関に提供している。入院中は家族とも連絡を取り合っ見舞いに行き、入院によるダメージを防ぎ安心しての受療と早期の退院に向け、医療連携室(MSW)等関係者と情報交換を行っている。退院時には、カンファレンスに参加し、「看護サマリー」等の提供を受けて、食事・歩行状況等退院後の事業所での支援に活かしている。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を入居前に説明を行って	基本的には事業所として看取りは行わない方針がある。契約時に、「重度化した場合の対応に係る指針」で、重度化した場合に事業所が対応しうる支援方法の説明を行い、家族の意向を確認しながら同意を得ている。利用者の身体状況が重度化してきた段階でかかりつけ医等を交えて繰り返し支援方法を話し合い、納得を得た上で施設・医療機関等への移行が円滑に行えるよう、家族への情報提供等必要な支援に取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や内部研修やを通して、緊急時の対応方法について理解してもらっている。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。 自治会に災害時・避難訓練等の相談を行っている。	26年度は年2回、利用者も参加して夜間帯出火想定での避難誘導、消火訓練と津波想定での避難誘導訓練を行っていることが記録から確認できる。適宜、職員へ避難経路・避難場所等の周知に努めている。今年度も訓練を2回実施する計画がある。運営推進会議等を通じて、地域へ非常災害時の協力依頼を呼びかけ、津波時には近隣マンションへの避難受け入れ協力を依頼している。自治会も事業所での訓練に参加し、事業所も地域の訓練に参加している。食料・水・カセットコンロ等の備蓄を行っている。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳が損なわれないように注意を払っているが、言葉使いが馴れ馴れしいことがある。	昨年度、接遇に関する研修を実施し、今年度は8月に管理者・リーダーを対象に外部から講師を招聘した接遇研修の実施計画がある。リーダー会議等で利用者の尊厳を傷つけないよう具体的な事例を例示して周知し、不適切な対応があれば管理者からや職員間で注意を促している。ホームページに掲載している利用者の写真については同意を得、また個人記録類は1階は事務所、2・3階はスタッフルームの鍵のかかるキャビネットに保管して個人情報の適正な管理にも努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご本人の思いや希望、自己決定が出来るように環境、雰囲気作りに努めております。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れはきまっているが、個々にあわせて臨機応変に対応しております。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に服を選んだり、訪問カットを利用しております。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	平日は業者に食材を発注しているが、土日はメニューから考え、出来るだけ入居者様と一緒に調理を行えるように努めている。その時々において出来ないこともあるが、盛り付け・	平日は、委託業者より食材が届けられ、各フロアで加温、炊飯、、みそ汁作り、盛り付け等を行っている。基本的には、土・日曜日は利用者の希望や季節感を採り入れた献立を考え、利用者と共に食材の買い出しに出かけ、野菜のカット等を一緒に行っている。日常的に、食器洗い、盛り付け等に利用者の好みや力を活かせるよう取り組んでいる。1カ月に1回程度、委託業者と食事の摂取状況等から献立を検討する機会を持っている。フロア毎に外食の機会も設け、時には家族も同席している。また、職員も同じ食事を利用者と一緒に楽しんでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックリストがあり、食事量・水分量の把握を行っている。食事量が少ない方へは、好きな物を提供したり、補助食品も利用している。	/	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている方もいるが全員ではない。	/	

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にあわせた排泄ケアにむけて、努力している。排泄パターンを把握し、トイレでの排泄へ支援していくが、現在は完全ではない。	「ケアサービス管理表」で、水分摂取量を勘案しながら、利用者の排泄状況・パターンを把握し、一人ひとりのタイミングに合わせた誘導に努めている。リーダー会議等でトイレでの排泄を大切にしたい排泄の自立へ向けた支援に努めるよう話し合っている。日中おむつを使用している利用者はいないが、パッド等の適正な使用に努めパッドやリハビリパンツの使用を減らすよう取り組んでいる。トイレ誘導時には、可能な限り短時間での介助や、ドアは必ず閉める等プライバシー確保に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品など、個々にあわせて接種して頂き、便秘改善に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	にゆよくの曜日は決めているが、拒否や体調不良によっては臨機応変に対応しています。	基本的には少なくとも週2回午後の入浴としているが、希望があれば回数等一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、更湯で入浴が楽しめるよう支援している。異性介助を嫌がる人には同性で、また負担感等で入浴を嫌がる人には、清拭等で清潔の保持に努めている。声かけや職員の変更等、忌避の理由に合わせて工夫を行ったり、お気に入りのシャンプーを使う等、入浴が楽しめるよう支援している。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマの更衣をして頂いた後は、入眠を促しますが、個々に合わせてゆったりと過ごして頂いています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬局と連携し、薬の詳細の説明・指導を受けています。お薬の説明書を頂き、全職員が薬に関して把握できるようにしています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一回、行事委員会によりレクリエーションや、ボランティアの受入などを実施している。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候により実施できなくなる場合もあるが、基本的には午前中に散歩に出かけていると共に、買い物に行くことが出来るようにしています。	近くの公園への散歩、スーパーへの買い物、喫茶店でのおやつ等、天候や利用者の希望・状況に沿って日常的に戸外に出かけられるよう努めている。酒蔵開きや家族と共に花見を楽しむ機会も設けている。戸外での移動に車いすが必要な人も、利用者の状況に合わせた移動方法に配慮しながら外出できるよう努めている。フロア毎に企画を立てて、外食を楽しめる機会を設け、また、家族の協力を得ながら相楽園等、普段は行けないような場所への外出支援にも取り組んでいる。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物も出来る方には支援しています。		



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話はできるだけ自由にしてもらっています。希望がある方には電話ができるようにお手伝いし、携帯電話を持ち込まれている方もいる。 お手紙は時期ごとに出せる方は支援しております。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には植物を置いております。居間にはテレビとソファを置き、くつろげるスペースを作り、食堂には馴染みの音楽を流し、台所にもお花を時々飾っております。	玄関やキッチンにユリ等季節の花を飾り、リビングは広くて明るい。利用者の状況に合わせてソファの配置を工夫する等、利用者が混乱を招かず、季節感・生活感を採り入れゆったりと過ごせるよう配慮している。リビングの壁に日めくりカレンダーやあじさい・あさがおのちぎり絵を飾り、春には中庭にチューリップ等の草花を植栽している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等は設置しており、完全に一人とはいかないが、思い思いに過ごせる空間は少しではあるがある。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に入居前に馴染みの家具や仏壇等の持参をお願いしており、入居者個々の好みや趣味が活かされた空間作りがなされている。	居室には、家具や家族の写真、時計等が持ち込まれており、入居者一人ひとりの使い慣れたものや趣味を活かして、居心地よく暮らせるよう工夫している。また、安全面に配慮して、家族に予測されるリスクを説明の上、シンプルな作りの居室もある。持ち込みのものが少ない利用者には家族に持ち込みを依頼すると共に、利用者の事業所での作品を職員が飾る等、居心地よく暮らせるよう支援している。また、居室の外の庭の笹に願い事を書いた短冊を結んでいる利用者もある。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや物の置き場所に名前のシールをはり、それぞれの場所が認識しやすいようにしています。		